

「制作実習」－復習問題(16).doc

氏名:

クラス:

★リハーモナイズ⑪ (Passing Chord その巻 : Diatonic Chord Progression)

3種類(T・S・D)だけ。そっからはじまった Function 記号は〔拡大解釈～応用～裏切り〕を経て増殖してきた

ファンクション名一覧 T ⇒ トニック S ⇒ サブドミナント D ⇒ ドミナント Sec.D ⇒ セカンダリドミナント (ダイアトニックコードに 7th でドミナントモーション) Re. II m7 ⇒ リレイテッド II m7 (Sec.D 又は Ex.D の前に置かれた II m7) Ex.D ⇒ エクステンデッドドミナント (ノンダイアトニックコードに 7th でドミナントモーション) PC ⇒ パッシングコード c.a. ⇒ クロマチックアプローチコード (パッシングコードの一種) Tm ⇒ トニックマイナー Sm ⇒ サブドミナントマイナー Dm ⇒ ドミナントマイナー sub V ⇒ 裏コード Ion5th ⇒ トニックの第2転回形でドミナント機能を持つ Dual Function (二重構造) ⇒ リレイテッド II m7 の中で、ダイアトニックコードの機能を合わせ持つもの Pivot Chord (旋回軸) ⇒ 基調と新調の両方に共通するコード
--

その中でも一応の最終形 = 同じコードに飽きた時に使っちゃう = パッシングコード Passing Chord。の2種類 (Diatonic Chord Progression と Passing Diminished) の内、今回は Diatonic Chord Progression。これつつてもなんのことはなく、2つのコードを Diatonic Chord で経過的に繋げちゃう！ってこと。

in C: I - Vm I II III IV Vm
T - Dm T P.C. P.C. P.C. Dm
Diatonic Chord Progression & Pedal Point (G Pedal)

更に、Diatonic Chord Progression のコードの前に、同じコードタイプの半音上 or 下のコードを置くのもアリ！

I bII II bIII III #IV IV #Vm Vm
T c.a. P.C. c.a. P.C. c.a. P.C. c.a. Dm
Diatonic Chord Progression & chromatic approach Chord & Pedal Point (G Pedal)

そーすつと上の例では、元々T→D ってな2つのコード(C→Gm7)が、増殖して9つのコードになっている。

★モードの前振りだけ～(sus4の拡大)

「制作実習」－復習問題(12).doc

- avoidを特性音 characteristic toneとして積極的に扱うのがモーダル界
モーダル界への拡張エンジン⇒Sus4の拡大
[和音の結合 Chord Connection]

って示したけど

これ、
なんのことかっつーと、
よーするに

コード界最強の進行エンジン＝ドミナント7thコード
をSus4コードに変身させることによって『(トニックへの)帰結性を消し去る』
ってことだったりする。

D dorianのダイアトニックコード

I Dm7 II Em7 III FM7 IV Gsus4 V Am7 VI Bø VII CM7

↑
G7だとCM7に行きたくないので、
モーダルじゃ使えない。
sus4にしちやえばドミナントモーションが消える
結果、コード句が消える

in D dorian:

で、だったら最初から全部 sus4 にしちやえばいいじゃん。
ってことになる。

C Diatonic (4th interval build)

こーすっと、チャーチモード7種に共通して使いちゃう。

そーやって古典的なコード＝Chord by 3rd＝3度堆積⇨コード界から離れてく。。。のよ

★モードの後振りだけ～(Tonal Center System)

トナルセンターシステム Tonal Center System とは？

よーするに、
ルートだけ決めて、あとは自由。ってこと
なんだけど、ここでは“音楽”にするために、制度 system を強調しとく。

「制作実習」－復習問題(13).doc

にて、
ぎょーさん登場した Chord Scale ⇨ mode。
それに

「制作実習」－復習問題(15).doc

★'Comp-⑥(4th Interval Build Voicing) Mechanical / modal interchange

★'Comp-⑦(Disonance Pile) NonMechanical Voicing

を合体させる。

Tonal Center = C

C dorian C com. dim. C whole tone C dorian

avoid を強調してるってことと、Tonal Center = Root を共有してるってことが大事！

★部分転調 change in key / modulation① (Tonic System)

「制作実習」－復習問題(14).doc

★リハーモナイズ⑨(substitution chords と modal interchange－マトメ)

にて示したよーに

『古典和声の進行原則』⇒トニックは全てのダイアトニックコードに進行できる！

を拡大解釈して

トニックコード(の代理も含む)⇒どこでも行ける！

つてのを利用した部分転調が＝トニックシステム Tonic System だ。

Tonic System の原則は

- ◎トニックで落ち着いたら
- ◎次の部分の主要なメロディノートを含む Key に転調
- ◎転調部分のトニックで落ち着いたら
- ◎何事もなかったかのように次に進んぢやう
- 部分転調はなるたけ原調と関係ない Key(ターゲットコード)を選ぶのがポイント！
- ナゾの NonDiatonic 音が出てきたら、そこから移調したと考えるのだ！

C Am7 Dm7 G7 トニック ↓ C Bm7 E7 AM7 G7 トニック ↓

in C: I T VI - II S V D in C: I T in A: II S V D I T in C: V D

└─Tonic System─┘